会報
遠藤章博士顕彰会

コロナ禍の今、博士の偉業に熱い注目を！

遠藤章博士顕彰会会長　佐々田亨三

「遠藤章博士顕彰碑」除幕式を５月１日快晴のもと、挙行することが出来ました。

秋田県知事（代理・県教育次長石川政昭様）、由利本荘市長湊貴信様、元文部科学省事務次官で東京国立博物館長の銭谷眞美様（代読・前秋田県教育長米田進様）からのご祝辞に続き、博士からは感謝のメッセージ（代読・博士の甥遠藤正悦様）を頂きました。除幕では東由利小、中学生の代表も加わって幕を取り去り、皆様にお披露目することが出来ました。顕彰碑の中央には博士の肖像、ヘッド部分には世界初・スタチン第１号・コンパクチンの化学式、モニュメントには博士の手形と、博士自身の筆による「努力」が刻まれております。ここに顕彰碑建立に当たりご賛同を頂きました皆様を始め、秋田県、由利本荘市、関係機関、そして、企画・交渉等されました遠藤正悦様、博士ご家族の皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。

厳しいコロナ禍にもかかわらず事業を推進することが出来ましたのは総会における理事会への信任のお陰であります。理事会のもとで、事務局拡大会議、特別委員会、事務局会議等で話し合いを重ね今日を迎えることが出来ました。

現在、コロナ禍２年目、私達成年の大方はコロナワクチンを２回接種しましたが、新変異株・オミクロンの脅威に再びさらされております。飲み薬承認申請の話題もありますが、まだまだ世界中を震撼させるものと思われます。

遠藤章博士は１９７３年、現在スタチンと総称されるコレステロール低下剤の元祖コンパクチンを青カビから発見し、新薬開発・安全性の臨床に尽力、スタチン開発のパイオニアとして世界的業績を挙げられました。ブラウン、ゴールドスタイン両博士がノーベル賞を受賞する際に「ここに遠藤はどうしていないのか」、また、ノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥博士は「遠藤章博士こそ」と言われました。遠藤章博士の医学・薬学界における創薬の大偉業・世界的功績であることを、コロナ禍の現実の中で再確認したいものです。そして、遠藤章博士のスタチンの開発と安全性臨床への揺るぎない、粘り強い努力がどれ程素晴らしいものであったかを再認識したいと思います。

今年も、博士はノーベル賞の有力候補として新聞紙上に掲載されました。10月４日、６日にそれぞれノーベル生理学・医学賞、化学賞の発表でした。多くのマスコミの関係者が、実家の遠藤正悦氏宅と、市長を始め、顕彰会員の待機するカダーレに集まり博士のノーベル賞受賞に関わる取材をしてくれました。「来年があるぞ」と業績の大きさを確認したところです。

顕彰会と致しましては、博士の世界的な偉業を末永く讃えると共に、子供達の学びの支えになる活動を続けるために、第一に、青カビからメバスタチンＭＬ－２３６Ｂ「コンパクチン」を発見するまでの研究・臨床等を中心に「遠藤博士を学び・語る会」の開催、第二に現地顕彰碑の解説・下郷分校の話等を中心に、博士の通学の主な箇所や小松耕輔、高橋宏幸の偉人にも触れる。第三に、博士と研究をともにした方の講演会等を計画できればと考えております。

今後、コロナ禍で厳しい状況ではございますが、よろしくお願い致します。

10月４日、ノーベル賞発表のインターネット中継に詰めかけた記者の皆さん（文化交流館カダーレ）

発行責任者
遠藤章博士顕彰会
会長　佐々田亨三
☎0184-72-2045

顕彰碑除幕式

遠藤章博士顕彰碑

70人が出席

顕彰碑除幕式は５月１日、秋田県知事代理、由利本荘市長、秋田県議会議長など来賓と関係者合わせ、コロナ禍を配慮し人数制限の７０人が出席して行われました。

午前１０時３０分に開式、主催者を代表し佐々田亨三顕彰会長があいさつ、秋田県知事代理と湊貴信市長が祝辞を述べました。

除幕は、コロナ感染症の影響で欠席をやむなくした遠藤章博士の代理で甥の遠藤正悦さん（小倉）と、東由利小・中学校の児童・生徒代表など１０人で行われました。

このあと遠藤章博士から届いたメッセージを遠藤正悦さんが代読、引き続き佐々田会長から顕彰碑完成を記念した記念品の目録が遠藤章博士に贈られました。

式典は午前１１時に終了、出席者は会場そばの東由利公民館に設けられた「遠藤章博士顕彰碑竣工記念特別企画展」に足を運び、遠藤章博士に贈られた発送前の特大の御殿まりの実物や数々の賞状、レプリカ、写真などを見学しました。

７０人が出席して行われた顕彰碑除幕式

先生の手形に感動

偉大なる遠藤章先生の顕彰碑除幕式に参加することができ、とても嬉しく思います。

自分の目標に向かって努力し続ける遠藤先生の姿勢は、私たちが学ぶべき姿であり、後世に伝えていかなければならないと東中生の鑑でもあります。

そんな遠藤先生の顕彰碑除幕式では、出席された方々から先生に対する敬愛の念が述べられました。また遠藤先生ご本人からは、新型コロナウイルスの影響でお手紙でのお言葉だったものの、東由利地域への熱い思いが感じられました。私個人としては、生徒代表として顕彰碑の除幕に立ち会うことができたことも忘れられません。厳かな雰囲気の中幕が取り去られ、顕彰碑が現れました。碑には先生の手形が付けられていました。その手形を見て、この手が先生の夢を実現したのだと思うと、身が震えるほどの感動を覚えました。

高橋まなかさん
（東由利中３年）

あきらめず努力！

私は顕彰碑除幕式に参加して、遠藤章博士のことをもっと詳しく知ることができました。学校では、授業の時に東由利の偉人について調べていたので、遠藤章博士については知っている程度のことは知っていましたが、学生時代の話は、調べてもあまりわかりませんでした。遠藤章博士から直接お話を聞きたかったのですが、コロナウイルスの影響で遠藤章博士が来られなくなり、とても残念でした。しかし、遠藤章博士のご親族の方からとてもおもしろい話を聞くことができました。お話の中で私が印象に残っているのは、「農家には勉強は必要ない」と親に反対されたり、いやなことをいう村の人をさけて、わざわざ通る道を変えたりしてまでも、へこたれずに勉強を続けたという思いにとても驚かされました。

高校時代の先生のおかげで今の自分がいると話されていたので、人との出会いやつながりも大事だと思いました。私はまだ、はっきりとした夢や目標はありませんが、今やらなければならない勉強や委員会活動など、あきらめずに努力していきたいと思います。

齊藤柑奈さん
（東由利小６年）

10月９日の秋田魁新報朝刊（地域版・県央）に掲載されました。（著作権許諾許可済）

東由利

スタチン発見　遠藤章さんの古里

功績広める動き活発

顕彰碑、展示、講話も

2021年のノーベル医学生理学賞と化学賞で、血中コレステロール値を下げる働きがある物質「スタチン」を発見した由利本荘市東由利出身の応用微生物学者・遠藤章さん（87）は選ばれなかった。関係者の悲願は、今年はかなわなかった。だが地元では、遠藤さんの顕彰碑や特設コーナーが設けられるなど、功績を広める動きが活発だ。

遠藤さんの顕彰碑の清掃に励む東由利中の生徒

顕彰碑は遠藤さんが学んだ同市東由利老方の本荘高下郷分校跡地にあり、刻印された遠藤さんの顔の上方に、スタチンの第1号「コンパクチン」の化学式を記している。遠藤さんの手形や「努力」の文字を刻んだ隣の石碑とともに、昨年発足した遠藤章博士顕彰会が今年5月に建立した。

東由利中（佐藤晋平校長、53人）の生徒は6月から月2回、顕彰碑を清掃している。各部活動のグループが持ち回りで行い、先月28日には野球部の2、3年生9人が雑巾で石碑を磨いたりほうきで周辺を掃いたりした。

2年の古川輝さん（14）は「博士と同じ東由利出身であることを誇りに思う。（顕彰碑を見て）夢を持ち、努力することの大切さを教えられる感じがする」と話した。東由利中は、遠藤さんを知る地元関係者を招いた講話も企画している。

道の駅東由利（同市東由利老方）にあるショッピングセンター「ふれあいプラザぶれっそ」は、遠藤さんゆかりの品を11日まで展示している。

医学分野で重要な発見をした科学者が対象で、遠藤さんが17年に受賞した方ナダ・ガードナー賞の賞状とメダルの写し、偉業を伝える新聞報道、遠藤さん直筆の「夢と努力」の色紙など約40点が並ぶ。遠藤さんが発見したスタチンがもとになった処方薬をまとめた解説も目を引く。

展示物は普段、旧八塩小校舎を活用した八塩生涯学習センター（同市東由利老方）で公開している。市教育委員会東由利教育事務課は「展示内容をさらに充実させたい」としている。

遠藤章博士顕彰会は昨年夏の発足以来、会報やパンフレットで発信を続けている。

会報第1号は昨年12月に発行し、顕彰碑の設置計画などを詳報。先月出たパンフレットには顕彰碑建立を受けた遠藤さんのメッセージなどを載せた。遠藤さんは自らの経験に触れながら「世界を広く見渡し、大きな目標を決め、努力を続けてください」と呼び掛けている。

年内に会報第2号を発行する予定。顕彰会の佐々田亨三会長（78）は「世界的な偉業を末永く伝えるとともに、子どもたちの学びの支えとなることを願い、活動を続けたい」と話した。（遠藤卓之）

ゆかりの品を紹介している特設コーナー

顕彰会が発行している会報と佐々田会長

大雪にも備え 顕彰碑を雪囲い

遠藤章博士顕彰会の顕彰碑管理部会（長谷山博昭部長・部員４人）は、冬将軍を間近に迎えた11月14日、大雪にも備えた顕彰碑の雪囲いを行いました。

当日作業に関わったのは長谷山部長と金子拓雄、遠藤正悦部員で、黄金色の銀杏の木の下でブルーシートでの雪囲い作業に汗を流しました。

これに併せ、国道から顕彰碑まで４枚の誘導看板の撤去を、東由利教育学習課職員が行いました。

ホームページ１月公開！

遠藤章博士顕彰会のホームページを制作中です。予算をかけないよう自前で制作し、年内の公開を目指していましたが、編集が間に合わず1月に延期しました。

コンセプトとして東由利をイメージした緑を中心に、遠藤章博士の研究に対する熱意をイメージした赤色をワンポイントとし、スタイリッシュでシンプルながらも温かみのあるデザインを目指しています。

基本的なコンテンツは、●遠藤章博士の歩み▼遠藤章博士がどういった過程でスタチンの発見・創薬し、現在に至ったのかを、年譜と博士のお人柄も垣間見れるような形で紹介します。●遠藤章博士顕彰会につい

て▼顕彰会設立に至った経緯や会報の掲載、活動などをブログ形式で紹介できるようにします。●関連施設▼実際に足を運び遠藤章博士の偉業に触れられる機会を増やすため、顕彰碑や顕彰室を画像を中心に紹介します。このほか、除幕式など催しの動画をユーチューブに配信します。

夢持ち努力する生徒に育って

東由利中学校では、東由利を代表する偉人である遠藤章博士の功績をたたえ、その意志を引き継ごうと、７月から顕彰碑の清掃活動を始めました。全校を３つのグループに分け、１０月まで２週間に１回、輪番制で行いました。

学校では、この活動を通して、遠藤博士のように「夢を持ち、その夢に向かってひたすら努力する」生徒に育ってほしいと願っています。

（東由利中教頭・猪股）

TOPICS

「ぷれっそ」を会場に「遠藤章博士展」開催

９月２２日～１０月１１日、東由利ショッピングプラザ「ぷれっそ」の催事コーナーで「遠藤章博士展」を開催しました。毎年この時期、遠藤章博士のノーベル賞受章に期待を寄せながら、このコーナーを開催していますが、今年は心筋梗塞・脳卒中の予防薬としての「スタチン」への関心の高まりもあってか、観覧者の数が例年より多く感じました。

（「ぷれっそ」事務局長・木島）

顕彰会会務報告

（令和３年１月～１１月末現在）

１月２０日　事務局拡大会議
２月１３日　理事会
２月２０日　事務局拡大会議
３月１７日　事務局拡大会議
３月２７日　事務局拡大会議
４月１０日　事務局拡大会議
４月３０日　事務局拡大会議
５月　１日　顕彰碑除幕式・顕彰碑リーフレットの発行
５月１日～９日　遠藤章博士顕彰碑竣工記念特別企画展を東由利公民館で開催
６月２５日　事務局拡大会議
７月１７日　理事会
７月３１日　事務局拡大会議・３年度総会資料の発送
９月２５日　事務局拡大会議
１０月４日・６日　遠藤章博士の業績を讃えノーベル賞発表に臨む会（市文化交流館カダーレ）
１１月１４日　顕彰碑の雪囲い
１１月１７日　事務局拡大会議

◆会費・協力金・寄付金等

（令和３年１１月末日現在）

・会　費　３５２，０００円
・協力金　　１９，０００円
・寄付金　　１９，０００円

今年度会費をお忘れの方は、令和４年１月７日までにお納め下さるようお願いいたします。新会員も募集しております。お近くで顕彰会活動に賛同していただける方がいらっしゃいましたら、お誘い下さい。

【問い合わせ先】
0184-69-2927（高橋）
0184-69-3014（長谷山）

遠藤章博士顕彰室

八塩生涯学習センターの一室（旧八塩小学校校長室）に「遠藤章博士顕彰室」を設置しました。

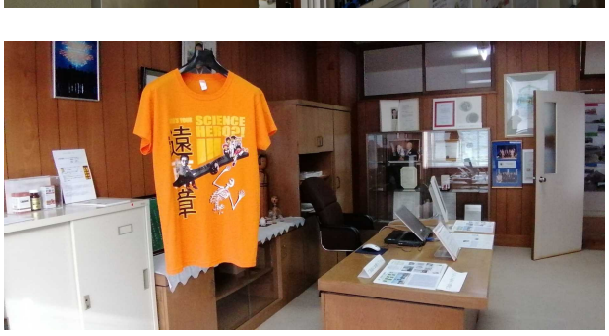
これまで同センター廊下の一角に展示していた展示品を移設し、新たに説明パネルやレプリカなどを追加しました。

５月１日に開催した除幕式の写真を入り口の廊下に掲示したほか、机に設置したパソコンで除幕式のＤＶＤを鑑賞することもできます。

同センターは毎週月・火が休館日です。

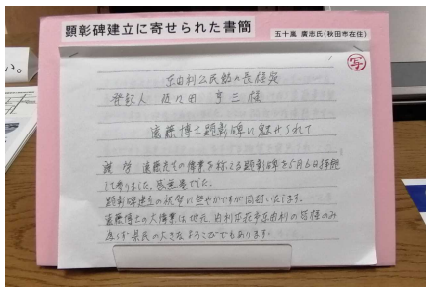
☎〇一八四（六九）二〇二八

入り口から室内

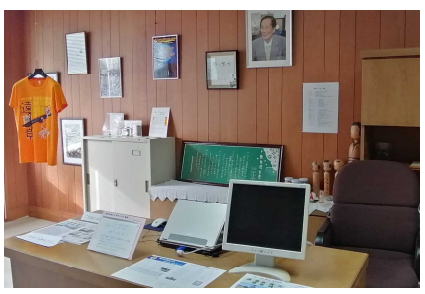


入り口に向かい左側

入り口に向かい右側



顕彰碑建立への書簡


パソコンには除幕式動画も

編集後記

手にした昨年の日記帳、指先がかかったページを開き目を通すと、「１月25日、新型肺炎（コロナウィルス）武漢から広がる」「１月29日、新型コロナウィルス感染広がる」、これ以降、このコロナウィルス、日本に限らず世界にどれだけ負の影響を与えたかは周知の通りです。このコロナ感染、あらゆる物に影響を与えて十一ヶ月、以来、人間の心のスキ、弱さを改めて知らしめてくれた感染症であったと感じます。

現在は全国警戒対応も大分緩やかになり、感染者も少なくなってきた現状です。しかし、コロナ対策、洩れることなく、対応はこれからが大事、ウィルスが入る隙を与えず・・・強く思うところです。

農芸化学とはネットで見ると「農学の一分野であり、化学を応用して生命・食・環境に関して幅広く研究する学問」とあります。東由利法内出身の遠藤章博士はこの農学者であり、現在まで数々の功績・業績を残し、毎年ノーベル賞の候補としても名前が挙がっております。５月１日、本荘高校下郷分校跡地にて遠藤章博士顕彰碑の除幕式に70名の出席をいただき、厳かに、厳粛に行われ、改めて博士の偉業と偉大さに強く感じた式でありました。

以来、地元東由利中学校の生徒さんは月二回顕彰碑の清掃を行っており、博士の偉業・偉大さに改めて感じつつ自分の将来をいろいろ描いていることと察します。

ノーベル賞、今年は受賞なりませんでしたが、賞の有力候補には間違いありません。「次こそは・・・」と強い気持ちを持って応援しております。

遠藤章顕彰会副会長兼機関紙編集検討委員会委員長　小松幸円